

## 【会長賞①：小学生の部】

### 「ぼくのいところ」

沖縄県・豊見城市立ゆたか小学校  
4年 大濱 高樹 さん

夏休みにいとこと、県立博物館・美術館の作品展を見に行きました。作品展は障がいのある小中学生の絵や、工作がかざられていてぼくのいところの作品もありました。ぼくのいところは「発達障がい」です。

ある日、いとこのお母さんから発達障がいの話を聞きました。いとこはうまれたときから障がいがあって、気づいたのは二才のころで、四才でしゅじゅつをしました。頭のしゅじゅつをしたので、顔がパンパンにはれて、泣いているいところを見て、みんなも泣いたと聞きました。かわいそうだなと思いました。

いとこは中学一年生ですが時計や字が読めなくて、ときどきほかのいところにバカにされたりします。そんなときいとこは悲しい思いをします。障がいがあっても、ほかの人と同じように、「うれしい」「悲しい」「さびしい」「楽しい」「すき」「きれい」のようにたくさんの感情をもっています。

いとこは、勉強はできないけど、人一倍ものおぼえがよく、一年いじょう前の話も忘れません。またほかの人のことを気づかうことができます。たとえばとてもつかれている人にいとこは「つかれているの だいじょうぶ。」と話しかけたりします。もしぼくだったら、はずかしくて言えません。だから、とてもすごいと思いました。ぼくがこのいところのいちばんすきなところは「えがお」です。いとこがわらうとまわりのみんなの気持ちがおだやかになります。いところには人を幸せにする力があるとぼくは思います。

ときどきいとこといっしょにいとこといくと、たいへんなときもあります。小さい子と遊んでいるときまちがえて泣かせてしまうことがあります。またじゅんぱんが守れなくてまわりにめいわくをかけたります。ですがぼくはそんないとこを、ささえてあげたいです。たとえば、ほかのいとこたちに、障がいのことを分かってもらって、みんなでいとこをいじめるのではなく助けてあげたいです。

ぼくは、みんながみんな平等ではないけど、どりよくしておたがいによいとこをいかしていけばいいと思います。パラリンピックも同じです。しょうがいがあってもスポーツをがんばってみんなに夢や希望をあたえることができます。

ぼくは、いとこがいたから、障がいについてしることができました。だから、ほかの人にも障がいのことを知って、みんなが障がいのある人たちをサポートしたら、障がいがある人もない人もみんなが幸せになると思います。